

## 新製品・新技術特集の発刊に際して

執行役員  
技術戦略推進室長

泉澤 清次  
Seiji Izumisawa



新製品・新技術特集の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

三菱重工は、たゆみない技術力の強化と研鑽、経営の革新及び変化と多様性への適応により、世界の発展に貢献し、共に成長を続ける企業を目指し、変革を大胆に進めています。事業本部の集約・再編(4ドメイン化)をはじめとし、昨年4月には、従来の5つの研究所を統合、1つの研究開発組織(総合研究所)を発足させました。更に、この4月には、新設の「エンジニアリング本部」、「マーケティング&イノベーション本部」および「バリューチェーン本部」と、既存のICTソリューション本部ならびに総合研究所、技術戦略推進室で構成される「シェアードテクノロジー部門」を発足させ、基盤となるコア技術の支援をグループ全体へ広げることで技術革新、新規事業への対応力を強化する体制を構築しました。

これらの取組みにより、急速に変化する社会のニーズをいち早く捉え、これまでに培ってきた当社の豊富な技術力をもとに、次世代を担う新技術・新製品を開発、社会に提供し、イノベーションを実現することで、社会の持続的発展に貢献致したいと考えています。

そこで、本号では近年の成果の一端として 30 件の新製品・新技術を紹介します。

新製品では、地熱フルターンキープロジェクト、航空機部品の自動生産システム、IoT クラウドデータサービス、大形高精度加工機 MVR-Fx、アブソリュートリニア MP スケール、高速製函機「EVOL100-400 枚/分機」、次世代ホームドア設備、海水用高耐久性ライニング鋼管について紹介します。

新技術では、特殊船技術開発、H3 ロケット用 LE-9 エンジンの燃焼安定性向上、国際宇宙ステーション向け小動物飼育装置の開発、鋼板の省エネルギー・高速酸洗技術、DUV レーザによる微細加工、歯車の高能率スーパースカイビング加工、プラント試運転の運転員支援システム、ボイラ伝熱管の高効率肉厚計測技術、高速炉の炉内機器交換工法、重作業向けパワーアシストスーツについて紹介します。

また航空機用複合材構造の高速修理法、複曲面の成形技術、繊維・樹脂の高品質・直接混練成形技術、高速・高精度な最適化手法を適用した機構解析技術、機械特性の可視化とパラメータ推定技術、海水淡水化向け無薬注前処理技術、木質バイオマスからのジェット燃料製造技術、フリースタANDINGラックの耐震評価技術、多段軸流圧縮機性能向上検証のための実験計測技術、重質油焚バーナの開発技術高度化、感温蛍光粒子を用いた流れの可視化、ボイラ給水中の微量鉄分析技術について紹介します。

これからも私どもの活動に対し、ご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。